



保護観察処分  不良措置としての施設収容 

図 1

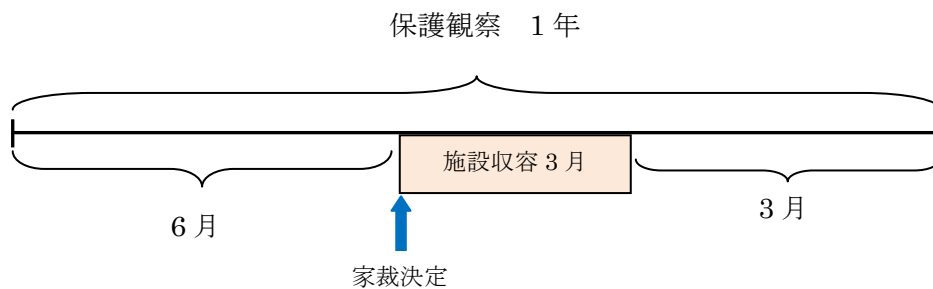


図 2

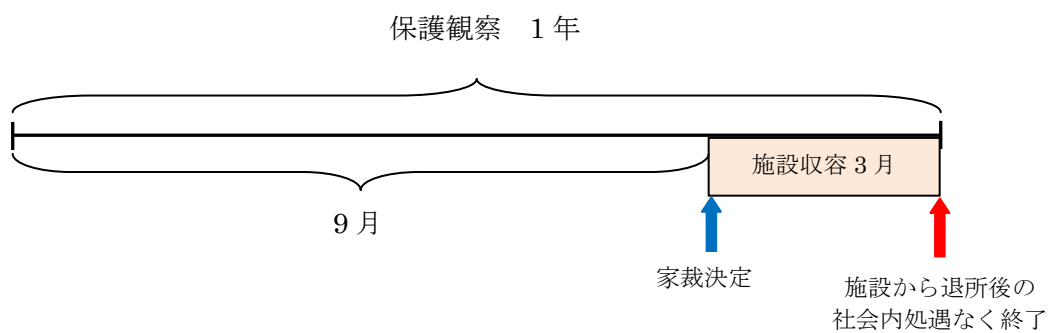
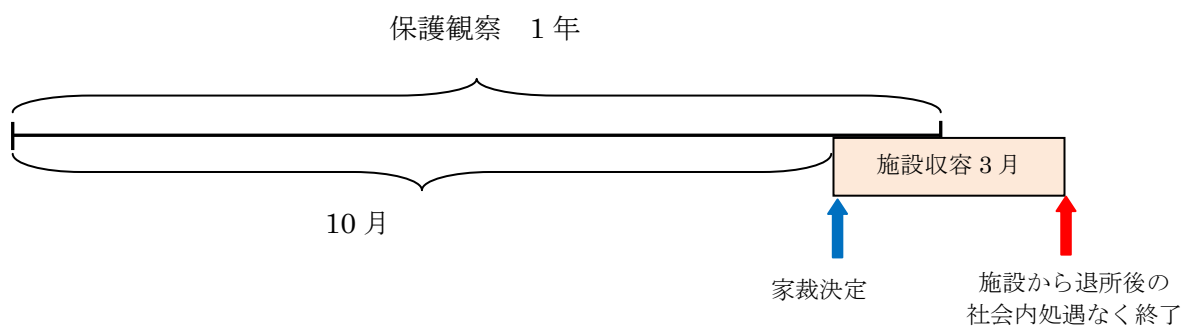


図 3



施設収容処分の後で社会内処遇を確保する方法

その1 保護観察を一時停止する方法

図4

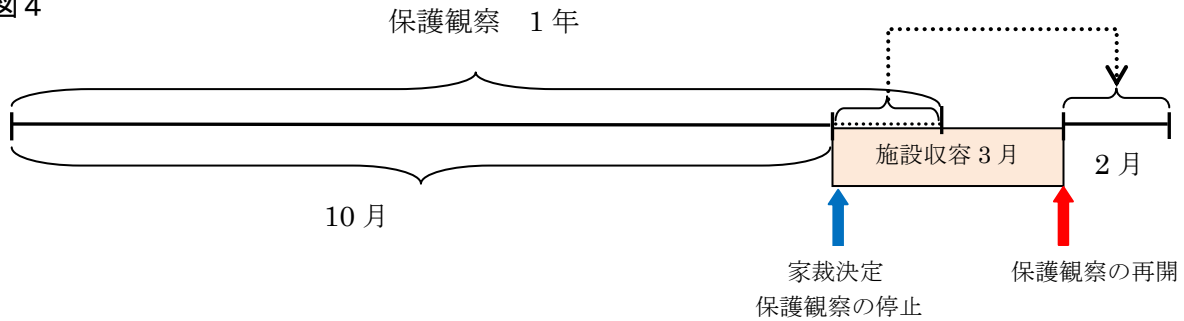
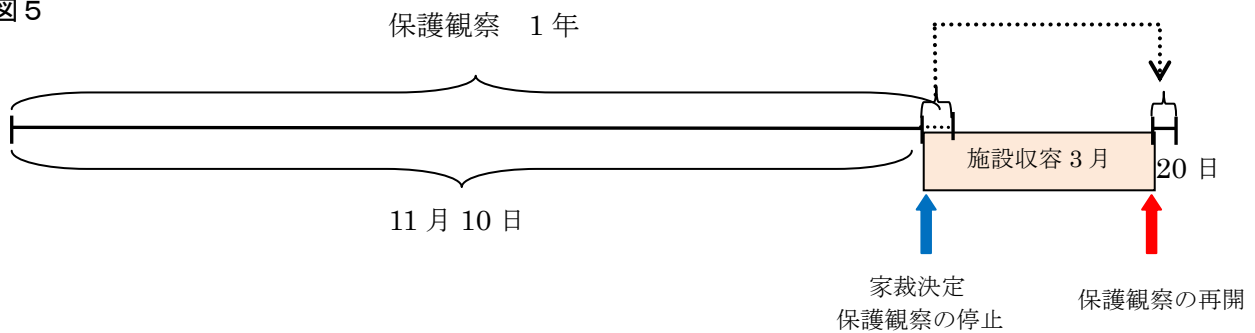


図5



その2 施設収容の途中で仮退所を認める方法（施設収容の期間を少し長めに法定しておく）

図6

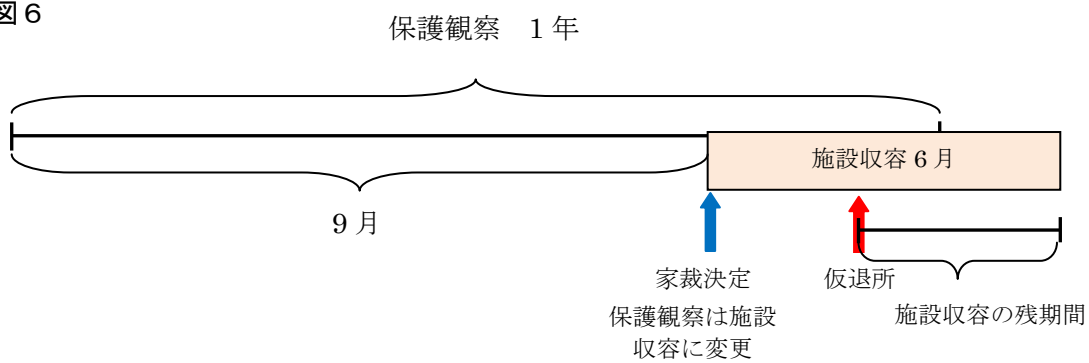
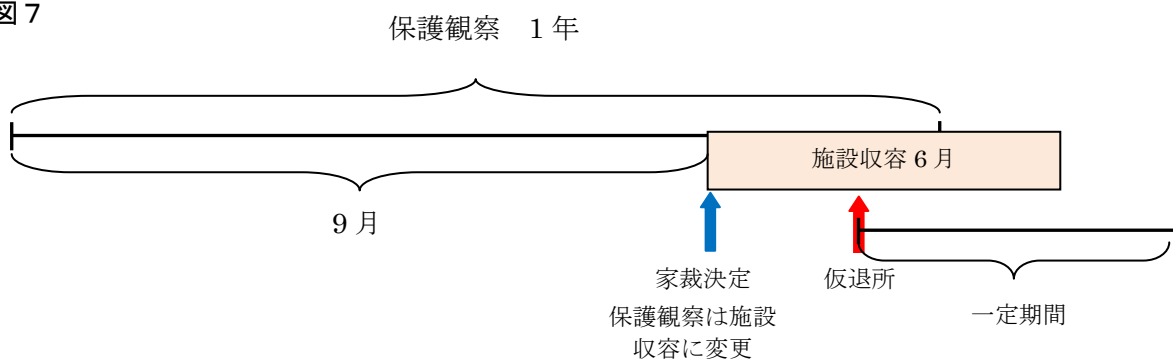
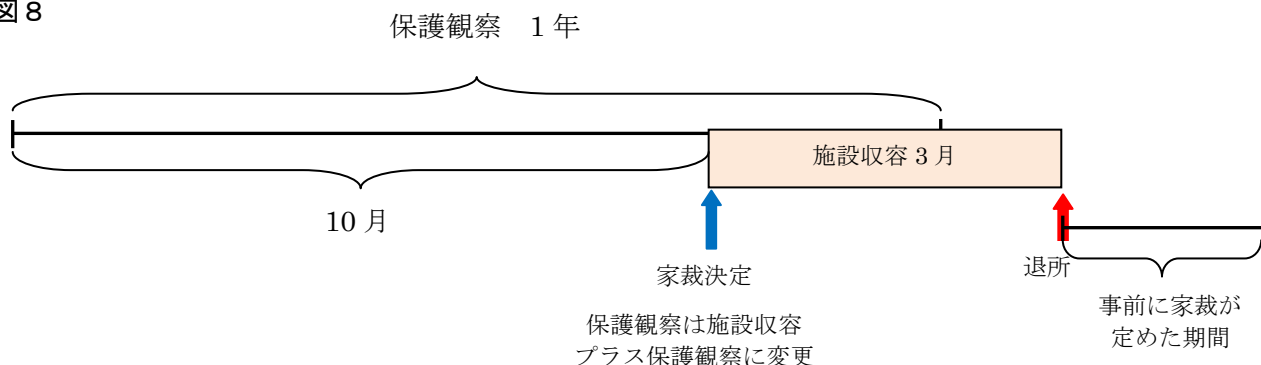


図7



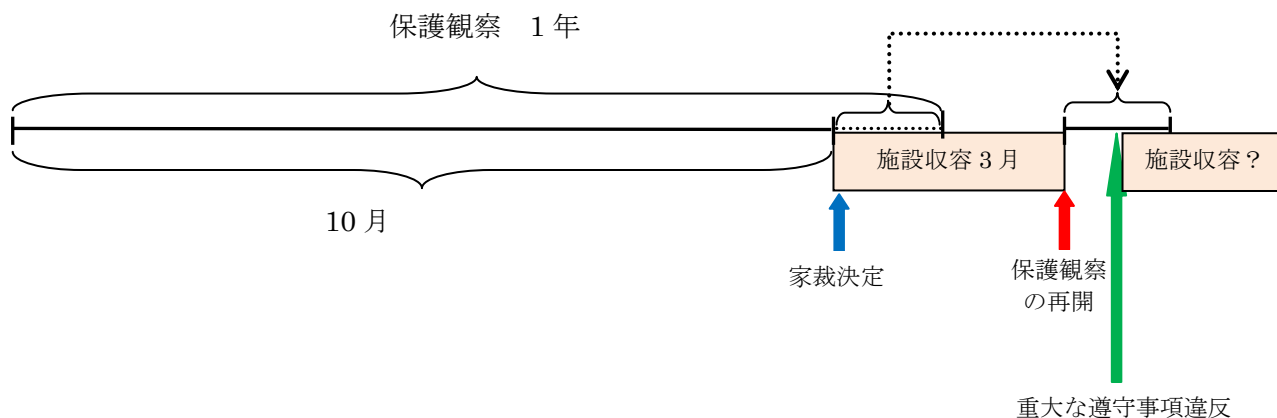
その3 施設收容決定の際に仮退所後の社会内処遇期間を決定しておく方法

図8



◎共通の問題 施設退所後の社会内処遇期間で重大な遵守事項違反があった場合の不良措置の如何

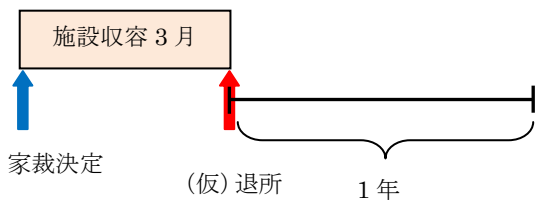
図9 (保護観察停止の場合の例)



再度の施設收容を許容すると、その後の社会内処遇の無限ループに陥る ×

原処分として施設收容処分を設ける場合も施設退所後の社会内処遇をどうするかという問題

図10



○幾つかの方法が考えられる。

- ・施設退所後の保護観察期間を固定期間とする（仮解除、解除を設ける）。
- ・施設收容決定の際に退所後の保護観察期間も決定する。
- ・施設からの仮退所を認め、施設收容の残期間又は一定期間とする。